

公益社団法人私立大学情報教育協会
2022年度第2回情報教育研究委員会情報リテラシー・情報倫理分科会議事記録

I. 日 時：令和5年3月23日（木） 16：00～18：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 参加者：玉田主査、佐々木委員、和田委員、金子委員、高橋委員、中西委員、本村委員、山口委員、小原委員、松尾委員
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 高等学校共通教科「情報Ⅰ」の確認、高校の情報担当教員の現状について

高校で2022年度から開始され、2025年度より共通テストへの導入が予定されている「情報Ⅰ」について、文科省の学習指導要領の目標などから整理した。

- ・ 小学校は総合的な学習、中学校は技術家庭、高校で情報Ⅰを修得し、情報Ⅰでは、共通必修科目（1年生）となり、情報Ⅱが発展的選択科目となっている。
- ・ 情報科目の教員は、教員免許取得者が少なく、他教科と兼任人者や免許外の先生が多い。

2. 私立大学としての準備など、以下のような委員の意見があった。

- ・ 共通テストに出題されるため情報Ⅰを勉強する可能性があるが、私立大学を目指す生徒は勉強しない可能性も考えられる。実際の入試では、共通テストを利用する検討もあるが、幅広い受験生を求める場合は利用を限定しない。
- ・ 情報Ⅰは、科学よりの学びとなり、現状より理解のバラツキは減少するのではないかと。また、大学の偏差値によりバラツキの可能性があると考えられる。
- ・ 現状の大学では、例えば、反転授業用の教材によりプログラムへの関心が上がっているが、オンデマンドで断念する学生もおり、論理的思考を教えている。ただし、情報関連の思考素養がない教えるのは、一律では難しく、人文系学生に興味を持たせ学生の底上げを考えたい。学生には、何ができるようになるかのゴールを見据えて学びを提示すべきではないかと。
- ・ 論理的思考ができる学生を求めるために入試を考えている。
- ・ プログラミングについて、情報Ⅰの教科書では、Python 以外にVBA、Scratch などが掲載されているが、そこまでの学習が進まない可能性もあるのではないかと。
- ・ 留学生が増えており、数学等のレベルが高い傾向はある。入学者の傾向は、情報修得レベルは高くなくパソコン初心者レベルが多い。
- ・ 情報活用能力について、入学してくる学生のレベルにバラツキがある現状に対して、プログラミング教育などで、大学が困らないように教材等の充実で支援してはどうか。
- ・ 教材としては、プログラミング以前に体験させるレベルからのステップも検討してはどうか。
- ・ 体験型学修として、プログラミング言語利用なしで、アルゴリズムを考えさせるフローチャート作成などが考えられる。
- ・ プログラミング学修としては、Python、VBA、Scratch、Edublock などを、何かのテーマ・場面の中で利用するイメージの授業を想定したい。また、教員が教材を作成できるようなサポートが考えられないかと。
- ・ 現状の授業の紹介や利用しているツールの紹介なども含めて例示を検討することにした。
- ・ コンテンツの基本は、15分～20分程度の長さを想定することにした。

VI. 今後のスケジュール

6月に委員会を開催し、提示可能な教材・授業案を持ち寄り検討することとしている。